

Shiqi Geng

シキ・ゲン

# 1. Sonate für Solobratsche

## 無伴奏ヴィオラ・ソナタ第一番

Nach Bilder von Marc Chagall

シャガールの絵の様に

『無伴奏ヴィオラ・ソナタ第一番』はアーツカウンシル東京と SKE - Soziale & Kulturelle Einrichtungen の助成により安達真理の委嘱によって作曲された。

初演は安達真理により、2022 年 11 月 20 日東京のムジカーザで行われた。

Auftragswerk von Mari Adachi, mit Förderung von Arts Council Tokyo und

SKE - Soziale & Kulturelle Einrichtungen

Uraufführung am 10. November 2022 bei Musicasa, Tokio

## 作品解説

マーク・シャガール氏は、数年に渡って私の世界観に非常に深い影響を与えた画家の一人である。彼の絵に充ちる柔らかい色彩、優しい輪郭線や児童画まで連想しやすい無邪気なイメージに大変魅了されるだけでなく、その絵の背後に隠された、彼の亡命生活で生まれた故郷や子供時代へのノスタルジーや、彼が経験したその時代に起きた色々な出来事への深い感得や思考も私に共感を与えた。特に私の出身国の状況も含めて今この世の中の状況について考えれば現時点でも深い意味があるだろうと思う。いつも通り、僕の曲は特定された具体的なイメージを表現するつもりはほとんどなく、今回も彼の絵のイメージを音楽に翻訳することより、その絵からの共感を通して僕自身の（音楽だけで表現できる）心理的体験を深く探りながら表現したいと思う。

このソナタは三つの楽章からなる。

### I. 「思い出と憧れの夢 (Träume der Erinnerung und Sehnsucht)」

この楽章は特定の絵からのイメージではない。「思い出」は厳しい現実、例えばシャガールの場合、彼に二度の亡命生活を強いらせたソ連とナチスの暴行によって壊れた幸せを象徴し、「憧れ」は彼がよく描く花束、抱き合う恋人、光みちる町などのイメージから、愛と幸せへの憧れを象徴する。この二つのイメージはソナタ形式として混在して発展する。

### II. 「夜空の下のヴァイオリン弾き (Geigenspieler unter dem Nachthimmel)」

シャガールの複数の絵に現れるヴァイオリン弾きをイメージとする。イスラエルの説話によると、このヴァイオリン弾きは苦しんでいる人を慰めるため、毎晩屋根の上に来てヴァイオリンを弾く。「苦しみ」は低い音域で駒の近くの奏法 (sul ponticello) が多用され、暗く、時折鋭い音色で表現される。音の並び方は例外なく減 5 度下がり続ける。「慰めるヴァイオリンの声」は歌のような美しいメロディで表現され、このメロディは繰り返しながらニュアンスが微妙に変わり続ける。

### III. 「花の町 (Village aux Fleurs)」

《私と村》や《散歩》などの絵からのイメージで、夢に見る、思い出の中にある幸せな情景を音楽で描きたい。「幸せな情景」は生活の中でも常に儚いものでもあり、そこからの「もののあわれ」も入り込んでいる。このイメージは、第一楽章の「憧れ」の部分のイメージと重なるものもあるため、第一楽章から幾つかの「モチーフ」を引用した。それは同時にクラシックのソナタ形式にある「モチーフの回想」との意味を持つ。

(演奏上の注意点: ) この楽章はアルペジオ、フラジオ、重音などヴィチュオス的に思いがちな奏法が多用するが、全然ヴィチュオス的に考えたことはない。アルペジオの流れの中にあるそれぞれの音は和声、旋律線、色彩、エモーションなどに独自の役割を持ち、音楽の流れに連れてニュアンスも微妙に変化し続ける。

(2021年6月14日、2022年2月8日改訂)

## Zeichen 記号

„s.t.“ = sul tasto

„s.p.“ = sul ponticello

„p.s.t.“ = poco sul tasto

„p.s.p.“ = poco sul ponticello

„m.s.t.“ = molto sul tasto

„m.s.p.“ = molto sul ponticello

## Dauer 演奏時間

ca. 30 Minuten 約 30 分

1. Satz: ca. 12' 第一樂章: 約 12 分

2. Satz: ca. 9' 第二樂章: 約 9 分

3. Satz: ca. 8' 第三樂章: 約 8 分

